

(第一回)

2026(令和8)年度入学試験問題

国 語

(試験時間：50分)

《注 意》

- (1) 問題は ～ まであります。
- (2) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (3) 受験番号、氏名を忘れずに記入してください。
- (4) 解答に際して、句読点・符号などが含まれる場合には1字分として数えます。

城西大学附属

城西高等学校

— 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

ほめられればだれだって嬉しいし、気分が良いものだ。でも、良い気分にしてもらえば自己肯定感が高まるのだろうか。

ほめられればうれしくて気分は高揚するかもしれないが、そういった^①一過性の気分の高揚と自己肯定感を混同すべきではない。自己肯定感というのは、ほめられれば高まり、叱られれば低下するというようなものではなく、もつと安定的なものともみなすべきだろう。自己肯定感が低い者は、ほめられて一時的に気分が高揚しても、だからといって自己肯定感が高まるわけではなく、自分に対するネガティブな気持ちは変わらない。一方、自己肯定感が高い者の場合は、叱られて一時的に気分が落ち込んでも、だからといって自己肯定感が低下するわけではなく、すぐに立ち直って、自分に対するポジティブな気持ちは変わらない。自己肯定感というのは、そういうものではないか。

ここで、ほめても自己肯定感が高まるわけではないことの理由を四つあげておきたい。

第一に、ほめられることで守りの姿勢に入り、気持ちが イシユク ^a するということがある。

ほめられることが自信になり、モチベーションも高まり、それが好循環をもたらずと考える人が多いようだが、ほめ方によっては逆効果になることもある。

《 中 略 》

第二に、たいしたことをしていないのにほめられると、自分が軽くみられている、たいして期待されていないと感じ、かえって自信がなくなることがある。

頑張つて壁を乗り越えたり、難しい課題を解決したり、何らかの成果を出したりしたときにほめられれば、単に嬉しくて気分が高揚するだけでなく自信になるだろう。 i 成果につながらなくても、諦めずに頑張ったときにほめられれば、それも自信になるはずだ。

ii 、とくに頑張つていないのにほめられたり、易しい課題を解決しただけでほめられたりしたら、「自分はあまり期待されていないんだ」とか「自分の実力はこんな テイド ^b だと思われるんだ」などと感じて、かえって自信をなくすことにもなりかねない。これではほめられることで ② 自己肯定感が高まるどころか、かえって低下してしまう。

iii 、とくに頑張つていないのにほめられたり、易しい課題を解決しただけでほめられたりして、「こんなもんでいいんだ」と樂觀することで、頑張る気持ちが薄れてしまうこともあるだろう。そうした適度な態度の自分に対してポジティブな気持ちをもつのは難しいはずだ。

第三に、ほめ方に操作性を感じるのと逆効果で、自己肯定感にはつながりにくいということがある。操作性を感じるほめ方というのは、「ほめれば言うことを聞くはずだ」とか「ほめればこちらの印象が良くなるはずだ」「ほめればこちらに好意をもつはずだ」などといった iv 的な動機を感じ

られるような、わざとらしいほめ方のことである。

第二の理由と多少重なるが、たいしたことをしていないのにほめられたりすると、「何か魂胆があるんじゃないか」といったギネン^cが生じたり、「気に入られようとしてもちあげてるんだな」「嫌われたくないだけじゃないか」などといった思いになり、ほめられても素直に受け止めることができない。これではいくらほめられたところで、自信にならないし、自分に対してポジティブな気持ちをもつということにはなりにくい。

印象を良くしたいとか嫌われたくないといったiv^{iv}的な動機でほめてくる操作性を感じるのには気持ちの良いものではない。ほめることを求められがちな教育現場では、教師が無理やりにもほめるということが行われている。^③そんな教師の姿勢に疑問を投げかける生徒もいる。それについては、項を改めて紹介することにした。

第四に、ほめる教育・ほめる子育てによって、常にポジティブな気分させられていると、ネガティブな状況に耐える力、いわゆるレジリエンスが鍛えられないということがある。I

レジリエンスは、復元力と訳され、もともとは物理学用語で弾力を意味するが、心理学では「回復力」とか「立ち直る力」を意味する。II

なかなか思い通りにならないとき、どうしたら打開できるかわからない困難な状況に追い込まれたとき、「どうしたらいいんだろう」と思い悩んだり、「もうダメだ、どうにもならない」と絶望的な気持ちになったりするかもしれない。

そこで問われるのがレジリエンスだ。困難な状況にあっても、心が折れずに適応していく力。挫折して落ち込むことがあっても、そこから回復し、立ち直る力。辛い状況でも、諦めずに頑張り続けられる力。それがレジリエンスである。

さまざまな定義を総合すると、レジリエンスは、強いストレス状況下に置かれても健康状態を維持できる性質、ストレスの悪影響を緩和できる性質、一時的にネガティブ・ライフイベントの影響を受けてもすぐに回復し立ち直れる性質をさすといつてよいだろう。

このようなレジリエンスが欠けていると、困難な状況を耐え抜くことができない。そのようなときに口にするのが、「心が折れた」というセリフだ。レジリエンスの高い人は、どうにもならない厳しい状況に置かれ、気分が落ち込むことがあっても、^④心が折れるということはなく、必ず立ち直っていく。III

どんなときも前向きに頑張ってきた人の心が突然折れることがある。「心が折れる」という言葉が、いつの間にか広く使われるようになってきたのは、時代状況が厳しくなって、頑張り屋だったはずの人の心が突然ダウンするといったことが頻繁^{ひんぱん}にみられるようになったからとも考えられるが、その心の強さには、いわば弾力が欠けていたのだ。もつと幅のある生き方をしていたり、もつと柔軟な考え方ができたりすればよかったのだが、レジリエンスが鍛えられていないため、行き詰まった

ときに柔軟な対応ができず、心がポキッと折れてしまう。

そこで求められるのは弾力性や柔軟性、いわばしなやかさだ。ストレスがかかったり、ギョッキョウに置かれたりして、一時的には落ち込んだり、情緒不安定になったりすることがあっても、わりと早く立ち直れる。そんなしなやかさをもった強さがレジリエンスである。Ⅳ

このようなレジリエンスは、困難を乗り越える経験や厳しい状況を持ち堪える経験を積み重ねることで鍛えられるものであるため、ほめられて常にポジティブな気分させられてはけっして鍛えられない。

適度に傷つくことで傷つきにくい心がつくられていく。傷つかないようにハイリヨされ保護されるばかりでは、かえって傷つきやすくなってしまふ。困難や厳しい状況に耐えられない弱い心を抱えているようでは、自己肯定感が高まることはないだろう。

(榎本博明『自己肯定感が高くないとダメなのか』)

問一 〰〰部 a 〰 e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 〰部①「一過性の気分の高揚と自己肯定感を混同すべきではない」とあるが、それはなぜか。「一時的」「自己肯定感」という言葉を用いて、説明しなさい。

問三 〰部②「自己肯定感が高まるどころか、かえって低下してしまふ」とあるが、それはなぜか。次のア～エからもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 「これくらいでいいんだ」と事態を楽観視して、モチベーションを完全に失ってしまひ、一時的に気分が落ち込んでしまふから。

イ とくに頑張っていないことをほめられたとしても、自分に対するネガティブな気持ちは変わらず、自信が湧いてくることはないから。

ウ たいしたことをしていないのにほめられてしまふことで、守りの姿勢に入ってしまう、気持ちがいしくしてしまうから。

エ 易しい課題をとくに頑張りもせずに解決したことをほめられると、自分が軽くみられているように感じ、自信をなくしてしまふから。

問四 ――部③「そんな教師の姿勢に疑問を投げかける生徒もいる」について、中学生同士がこの話題に対して議論を交わしている。空欄 X、Y に当てはまる語句を、条件にしたがって、本文中から抜き出して答えなさい。

Aさん…確かに担任の先生から無理矢理ほめられているような感覚を持つことってあるよね。

Bさん…そうだね。この前、成績表を渡された時に「君は国語の成績が伸びたね！頑張ったね！」って言われたんだけど、実際は英語と数学の成績は落ちてたんだよね。それは自分でも反省していて、「そこをほめられても…」と思ってしまったよ。

Aさん…私は部活で、できなかったことができるようになったことをほめられた時は素直に嬉しかったし、自信になった。けれど、以前からできていることを大袈裟にほめられると、「先生、いつも私のこと見ていないのかな？」って逆に不安になったよ。

Bさん…先生はほめることが効果的ではない場面でも、ほめないといけないのかな？

Aさん…それこそ筆者の言う「X(三字)」を私たちに感じさせてはいけないよね。私は「ダメなものダメー」って言うってくれる先生の方が好きだな。努力していない自覚があることを「努力してないだろ！努力しろ！」って叱ってもらった方が成長につながる。言われたその時は鬱陶しいけどね。

Bさん…それって筆者が言っている「Y(六字)」の話につながるんじゃない？多分勉強も部活も一緒のことが言えるね。ある程度の困難を乗り越えないと色んな意味で強くないね。「良い指導」って奥が深いね。

問五 空欄 i、iii にあてはまる語句としてふさわしいものを、次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア でも イ たとえ ウ あるいは エ したがって

問六 空欄 iv にあてはまる語句としてふさわしいものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 排他 イ 抽象 ウ 利己 エ 観念

問七 本文中から次の一文が抜けている。I、IVのうち、あてはまる箇所はどこか。記号で答えなさい。

レジリエンスが高ければ、心に強さだけでなく、しなやかさがあるため、どんなに大きなストレスがかかっても、心が折れるということがなく、タフに乗り越えていけるのである。

問八 ――部④「心が折れるということではなく、必ず立ち直っていく」とあるが、このような人になるためには、あなたはどのような経験をするべきか。具体例を挙げて百字以内で説明しなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

溪哉^{けい}と実紀^{みのり}は幼なじみの高校三年生で、野球部を引退した後は大学受験にむけた勉強に励んでいた。しかし、溪哉は思うように自分の将来を思い描けずにあせっていた。ある日、二人は道に迷っていた女性（青江里香^{あおえりか}）に故郷・美作^{みやま}の案内をし、夕食をともにすることになった。

「うほっ、美味^{うま}そう」

さつきまでの憂い顔はどこへやら、実紀が嬉しげに喉を鳴らした。

山盛りのご飯とみそ汁、牛ステーキの載った膳を食事処に運ぶと、里香は一人で備前焼の猪口^{ちよこ}を傾けていた。

酒の香りが漂う。

「濁酒^{しじゆ}ですか」

里香の手元を覗^{のぞ}き込む。白い酒が揺れていた。

猪口を置き、里香は頬に手を添^そえた。目元が仄^ほかに赤らんでいる。

「美作の特産だつて聞いて……。濁酒、飲んだの生まれて初めて」

「どんな感じですか」

「美味しい。思ったよりずっと円^まやかで。でも、けっこう、きついね。胸のあたりからじんわり熱くなってくるみたい」

「濁酒乾杯条例^{しじゆけんぱい}つてのがあるらしいんすよ」

実紀が里香の右隣に座る。

食事処は板敷きの広い一間になっていて、三か所に囲炉裏^{いろり}が切つてあった。むろん、火は入っていない。冬場は、ここで串に刺した魚や肉を炙^{あぶ}り焼きにしたり、豚汁ならぬ猪汁の鉄鍋をかけたたりする。

「乾杯条例？」

「そうそう。まずは、美作特産濁酒で乾杯してから騒ごうつて条例です。けど、法的拘束力はないので、おれたちが水で乾杯してもおまわりさんには捕まりません」

「むしろ、濁酒で乾杯したら捕まっちゃうよね。これ、かなりのアルコール度数でしょ」

里香が猪口を実紀が水の入ったグラスを掲げた。①一呼吸分遅れて、溪哉もグラスを持ち上げる。

「じゃ、とりあえずカンパーイ。青江さん、美作にようこそ」

「はい。よろしくお願いします」

器の触れ合う音と実紀の声が響く。

三人の他には、親子だろう赤ん坊と幼い女の子を含む四人連れと、老夫婦らしい二人組、奥の座

敷に六人の女性客たちがいるだけだ。

「お酒もお料理も美味しいね。さつき聞いたけど、黒豆もここの特産品なんですって?」

囲炉裏の縁、横座の位置に溪哉は座っていた。里香が眼差しを溪哉に向けてくる。

「……ですかね」

「I を傾げる。」

「あら、知らないの」

「詳しくは。聞いたこと、あるような気もするけど……」

「特産も特産。一大特産品ですよ」

② 実紀が口を挟む。

「収穫期には収穫体験もできます。でも、今ならスイートコーンやブドウ狩りがお薦めですね」

「詳しいのね。ちょっととした観光ガイドみたい」

「美作っ子じゃから、このぐらいの知識は当然です」

実紀が II を張る。それから、ステーキを一切れ、口の中に放り込んだ。

「でも、溪哉くんは知らなかったんでしょ」

「ああ、こいつは……。うーん、美味しい、やっぱ牛さん最高だね。んで、溪哉は故郷のことなんか、あんましキョーミないやつなんで」

「普通、現役男子高校生が故郷の特産品なんかに興味持つか? おまえが変わつとるんじゃないかねえ

かよ」

溪哉もステーキの一切れを食む。

確かに、美味しい。

肉の旨みが口の中に広がって、空腹感をさらに掻き立てる。

実紀が膳の上に箸を置いた。

「郷土愛じゃ、郷土愛。おれは、美作や古町が好きなんじゃ。できたら、ずっとここで暮らしたいと思うとる」

「え? おまえ、神戸か京都の大学、受験するつもりじゃって言うてなかったか」

「だから、一旦は外に出てもいろいろと蓄えて、また帰ってきたいと思うとるわけ」

「いろいろ蓄えるって?」

「だからいろいろじゃ。例えば……技術とか情報とか、つまり、ここが豊かになるようなノウハウみたいなものを、できるだけようけ吸収して持ち帰るみたいな……」

「実紀、そんなこと考えとつたんか」

「まあな。あ、むろん、野球は続けるで。美作に帰って、チビッコたちに野球のおもしろさを伝えられたらええもんな。そういうの、ええじゃろ。奈義牛^{※1}レベル、つまり最高よな」

実紀が笑う。屈託くつたくのない笑みだ。

③ どん。強く胸を衝つかれた。束の間つかだが、息が詰つまった。

今、初めて実紀の想いを聞いた。溪哉は飛び立つことばかりに心を奪われていた。未知の場へ、未知の世界へ、ここではないどこかへ飛び立つ望みと不安の間で揺れていた。

自分の背に翼があつて、どこまでも飛翔できる、なんて夢物語を信じているわけじゃない。でも、思い切つて飛ばば、何かに出会えて道が開けるんじゃないかとは期待していた。

淡く、根拠のない、そして他力本願の期待だ。ふわふわと軽く、ただ浮遊する。少し強い風が吹けば、さらわれてどこかに消え去つてしまふだろう。

実紀の想いには根っこがある。現実に向かい合う覚悟がある。

ずっと一緒にいた。ずっと一緒に野球をやつてきた。

互いの家を行き来して、「あんたら、どっちの家の子かわからんようになってるねえ」と、周りに呆あきれられたりもした。

実紀のことなら何でも知っているつもりだった。

それが、どうだ。

目の前に座っているのは、見知らぬ男ではないか。溪哉よりずっとリアルに、ずっと具体的に根④を張り巡らせて生きて行こうとする男だ。

——おまえ、馬鹿じゃな。こんな田舎とろに囚とらわれて、ずっと縛り付けられてるつもりなんかよ。町と一緒に廃れてしもうてええんか。

そう揶揄やゆするのは容易たやすい。けれど、どれほど嗤わらつても嘲弄ちょうろうしても、実紀はびくともしないだろう。

「そうか……」

目を伏せていた。

実紀のように素直に笑えない。

「おまえ、意外に、真面目じゃったんじゃないな。知らんかったなあ」
目を伏せた自分が嫌で、口調をわざと冗談っぽく崩す。

「まあな。おれ、淳※2也さんを目標にしとるけん」

実紀が口元を結ぶ。⑤ 一打逆転の打席に向かうときのように、硬く引き締まった表情だ。

「兄貴？ 何で兄貴が出てくるんじゃない」

「だって、淳也さん、すごいが。本気で地元のために動いて、商売を繋げて、新しい繋がりもどんどん作って行って……。淳也さんを見ると勇氣※3がちゅうか、やれるんじゃないかって気持ち※4が湧いてくる」

「ふーん」

気のない返事をしてみる。これも、わざとだ。井に山盛りの飯を掻き込む。「み※5その苑」は、米と

野菜を近隣の契約農家から仕入れる。その季節に採れる最高の食材を提供する。が、誦い文句であり、板場をしきる栄美の父の矜持きようじだった。その矜持に相応しく、どの料理も新鮮で美味い。しかし、溪哉の食欲は急速に萎なえていった。

ここにも、兄の淳也がいる。

★と切り切るほど、実紀が兄に心酔しているとは知らなかった。知らなかったことだらけだ。

(あさのあつこ『透き通った風が吹いて』)

※1 奈義牛： 岡山県のブランド牛の名前

※2 淳也さん： 溪哉の兄。父が亡くなった際、勤めていた都会の会社を辞めて実家の家業を継いだ。

※3 みその苑： 今、食事をしている店の名前。

※4 矜持： 誇りや自信、プライド

問一 ―― 部A「屈託のない」・B「誦い文句」の意味としてもっともふさわしいものをそれぞれ次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

A 屈託のない： ア 心に悩みや心配がない イ 相手に対して気づまりでない

ウ 何物も意に介さない エ まったく大人ぶっていない

B 誦い文句： ア 工夫によって作られた見せ場 イ 生産者からの直接の宣伝

ウ プライドを維持するための思い エ 長所や特徴を強調した宣伝

問二 空欄 I・II にあてはまる慣用句を完成させるために必要な、体の一部を表す漢字をそれぞれ答えなさい。

問三 ―― 部①「一呼吸分遅れて、溪哉もグラスを持ち上げる」とあるが、ここから読み取れることとしてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

A 全体の流れに合わせながらも、自分にとってそれほど関心の高くない内容でなされている会話にややうんざりしている様子。

I 全体の流れに合わせようとはするものの、美作について交わされている二人のテンポの良い会話に乗りきれないでいる様子。

ウ 全体の流れにあえて乗り遅れてみることに、二人がテンポよく語っていた会話に自分も加わりたいと気づかせたい様子。

E 全体の流れには少しだけ乗り遅れてしまったが、明るい声で客である里香を歓迎したいと思いい、挽回を試みようとする様子。

問四 ——部②「実紀が口を挟む」とあるが、このときの実紀の気持ちの説明としてもつともふさわしいものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分にとって大切な故郷である美作の特産物を紹介できるチャンスだと捉え、里香にも美作を気に入ってもらえるよう説明したいと張り切っている。

イ 里香に自分が美作についての知識が豊かだということを知ってもらい、自分に興味を持ってもらえるようなポジティブな会話をしようと思っている。

ウ 自分の住んでいる町の特産品の話になったのでそのことを誇りに思い、少しでも長くその話を続けていられるように頑張ろうとしている。

エ 美作も里香も自分にとって愛着を持てる存在だが、里香は美作に対してまだ関心を抱いていないため、まずは特産品を知ってもらうよう考えている。

問五 ——部③「どん。強く胸を衝かれた。束の間だが、息が詰った」とあるが、溪哉がこのようになった理由を説明しなさい。

問六 ——部④「根を張り巡らせて生きていこうとする」とあるが、「根」はここではどのような意味で用いられているか。本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問七 ——部⑤「一打逆転の打席に向かうときのよう」とあるが、どのような意味か。その説明としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 「一打逆転」とあるように、夢をかなえるには今は苦しい状況ではあるが、淳也の商売の方法を見習えば実現できると感じているということ。

イ 淳也の故郷愛を見ているうちに自分も感化され、真剣に自分もその夢の手伝いをしたいと感じたということ。

ウ 「一打逆転」とは自分にとっては熱くなれるチャンスと捉え、何としても淳也に自分の熱意を認めてもらうようと考えているということ。

エ 淳也の行動力とその結果を見ているうちに、自分も自分の夢を実現させたいという気持ちが生まれたということ。

問八 空欄 ★ にあてはまる二字熟語を本文中から抜き出して答えなさい。

問九 本文中の内容にあうものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 溪哉は実紀の考えに対して、ずっと田舎に縛り付けられるのはつまらないことだと言いながら、将来への考えについてこれ以上差を広げられないようにしようとしている。

イ 里香は初めて美作を訪れて溪哉たちと夕食をとにしたが、いつの間にか会話の雰囲気が悪くなってしまい、なかなか会話に参加することができなくなってしまった。

ウ 実紀の考えていることを知った溪哉は、実紀が大きな存在に見えてしまい、自分でも思い通りにふるまえなくなったり本心からではない反応を示したりしてしまっている。

エ 実紀は神戸か京都の大学で学ぶことを「未知の世界」と感じつつも前向きに捉え、いずれは美作に貢献しながら子ども達に野球の面白さを伝えたいと考えている。

三

次の古文と、その現代語訳を読み、後の問いに答えなさい。

① 二月つごもり、三月一日頃、花盛りに籠りたるも、をかし。清げなる若き男どもの、主と見ゆる二、三人、桜の襖・柳など、いとをかして、くくりあげたる指貫の裾もあてやかにぞ見なさるる。つきづきしき男に装束をかしたる餌袋抱かせて、小舎人童ども、紅梅・萌黄の狩衣、色々の衣、押し摺りもどろかしたる袴など着せたり。花など折らせて、待めきて細やかなる者など具して、金鼓打つこそをかしけれ。さぞかしと見ゆる人もあれど、いかでかは知らむ。うち過ぎて去ぬるもさうざうしければ、「気色を見せまじものを」など言ふも、をかし。

かやうにて、寺にも籠り、すべて例ならぬ所に、ただ使ふ人の限りしてあるこそ、甲斐なうおほゆれ。なほ同じほどにて、一つ心に、をかしきこともにくきことも様々に言ひあはせつべき人、必ず一人二人、あまたも誘はまほし。そのある人の中にも、口惜しからぬもあれど、目馴れたるなるべし。男なども、さ思ふにこそあらめ、^②わざと尋ね呼びありくは。

(出典は解答に関わるため省略する)

(現代語訳)

二月末か、三月初め頃(今の四月上旬)、桜の盛りに寺に籠るのもおもしろい。すっきりした若い男たちで、主人らしい二、三人が、桜襲の狩衣や柳襲など、服装もとてもしゃれて、歩きやすいようにくくった指貫袴の裾も上品そうに見える。気の利いた従者に飾り立てた弁当袋を抱えさせ、子供の少年たちには、紅梅や萌黄色の狩衣に、色々の着物、模様を摺り染めにした袴などを着せている。桜などを折って持たせた、侍風のほっそりとした従者を連れて、金鼓を打つのもよい。あの人だとわかる人もいるが、どうしてこちらに気づくだろうか。通り過ぎてしまうのも物足りないから、「いる様子を見せたいものを」と言うのも面白い。

このようにして、寺にも籠り、何でもいつもとは違う所に、ただ召使だけ連れて行くのは甲斐がない。やはり同じくらいの身分で、気が合って、面白いことも腹の立つことも色々と言ひ合えるような人を、必ず一人二人、できればたくさん誘いたい。召使の中に気の利いた者もいるが、見慣れていて変わり映えがしない。男なども、そのように思うのであろう、同行者を誘ってまわるのは。

問一 〓部「さうざうしけれ」を現代仮名遣いに直しなさい。

問二 —— 部①「二月」の月の異名を、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 卯月
- イ 文月
- ウ 如月
- エ 長月

問三 —— 部②「わざと尋ね呼びありくは」とあるが、この後に省略されている表現を（現代語訳）から十五字以内で抜き出して答えなさい。

問四 本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 外出時に知り合いがいない寂しさ
- イ 当時は珍しい、女性の外出の喜び
- ウ 連れている召使との関係性の難しさ
- エ 人々が着ている着物の鮮やかな様子

問五 問題文は「清少納言」が書いた、日本三大随筆のうちの一つに数えられているものである。この随筆の名称を漢字三字で答えなさい。

